

平成29年度第2回新宿区消防団運営委員会

開催日時	平成30年1月18日(木) 10時00分から10時40分まで
開催場所	新宿区役所本庁舎5階大会議室
諮問事項	「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、消防団の活動能力を強化するための方策はいかにあるべきか」
出席者	委員長(敬称省略) 吉住 健一(新宿区長) 委員(敬称省略) 森口 つかさ(東京都議会議員)、大山 とも子(東京都議会議員)、古城 まさお(東京都議会議員)、森 孝司(新宿区危機管理担当部長)、木もと ひろゆき(新宿区議会議員)、田中 のりひで(新宿区議会議員)、桑原 羊平(新宿区議会議員)、渡辺 清人(新宿区議会議員)、久保 広介(新宿区議会議員)、のづケン(新宿区議会議員)、新藤 博(四谷消防署長)、大熊 亮浩(牛込消防署長)、湯浅 達也(新宿消防署長)、加古 三稚(四谷消防団長)、中村 功(牛込消防団長)、岩田 千明(新宿消防団長)
欠席者	委員(敬称省略) 秋田 一郎(東京都議会議員)
傍聴者	0名
配布資料	1 次第 2 委員名簿 3 平成29年度第2回新宿区消防団運営委員会資料(答申書案)
審議次第	1 開会 2 定足数の確認 3 報告 4 審議 5 閉会
審議内容	
事務局	<p>それでは、定刻となりましたので、これより平成29年度第2回新宿区消防団運営委員会をはじめさせていただきます。</p> <p>委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私、本日、司会進行を務めさせていただきます、新宿区危機管理課地域防災担当副参事の安藤でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、はじめに資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(資料の確認)</p> <p>お手元の資料に過不足等がございませんでしょうか。</p>

	<p>それでは、以後の議事進行につきましては、新宿区消防団運営委員会委員長であります吉住区長にお願いします。</p> <p>吉住委員長よろしくお願いします。</p>
委員長	<p>新宿区消防団運営委員会委員長の吉住でございます。</p> <p>本日はお忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、日頃から委員の皆様には防災行政をはじめ、区政全般にわたりまして、ご指導、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、本年度の諮問は「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、消防団の活動能力を強化するための方策はいかにあるべきか」であります。</p> <p>平成28年度第1回、平成29年度第1回消防団運営委員会を踏まえ、今回は3回目の委員会となっております。</p> <p>限られた期間、回数の中でご審議いただきますことをあらかじめご理解いただき、消防団活動を通じて新宿区の安全・安心がさらに向上できる答申として取りまとめできますようにご協力をお願いします。</p> <p>また、東京消防庁からの依頼もあり、新宿区消防団運営委員会は公開とするほか、議事内容についても後日区ホームページ上に公開させていただきますので、あらかじめご了承ください。</p> <p>それでは、お手元の「次第」に従い、進めさせていただきますので、委員の皆様には、活発なご検討をお願いいたします。</p> <p>まず始めに、事務局にて定足数の確認をさせていただきます。</p>
事務局	<p>定足数の確認でございますが、本日、秋田委員がご都合により欠席されておりますが、定足数18名中17名の出席で委員会は成立しております。</p>
委員長	<p>ただいま事務局から定足数の確認をいたしましたとおり、本日の新宿区消防団運営委員会は成立しております。</p> <p>議事に入る前に、平成29年12月1日付で、委員の変更がございましたので、ご報告させていただきます。</p> <p>特別区の消防団の設置等に関する条例第5条第1項第4号の委員として、牛込消防団長、中村 功委員が、あらたに就任されました。よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、お手元の「次第」に戻りまして、議事を進めてまいります。</p> <p>今年度の諮問事項「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、消防団活動能力を強化するための方策はいかにあるべきか」について、前回の審議を踏まえ、作成いたしました答申書（案）について、検討を行いたいと思います。</p> <p>四谷消防署からご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、本日の審議事項であります新宿区消防団運営委員会答申案について、前回第1回の委員会で審議いただいた答申素案に対しまして、各委員から意見、</p>

質疑を受けた内容について、加筆修正致しました。答申の方向性、方策の項目等の内容については大きな修正はございませんので、本日は答申素案の加筆修正させていただいた朱書き箇所を中心にご説明させていただきます。

それでは、お手元答申書（案）をご覧ください。諮問事項「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、消防団の活動能力を強化するための方策はいかにあるべきか」新宿区消防団運営委員会であります。

目次には3つの検討項目を記載させていただいております。

「はじめに」の部分につきましては、素案の通り修正箇所はございません。

「第1 各消防団の情勢に対応した事項で」あります。この第1検討項目につきましては、4行目の文章において、「早期に消防団の任務を確立するとともに、隣接消防団等との各種訓練を実施し、情報の共有と連携体制の構築、さらには、消防団の活動環境の充実を図ることが望まれる」との内容に加筆修正しております。この修正は、前回の委員会で委員から大会の組織図や消防団の活動についての意見に対しまして、現在東京消防庁では具体的な任務は示されていないことから、今回東京2020大会に向けて、消防団の任務を早期に確立すること、また委員から、消防団の人たちの活動しやすい環境を組むべきとの意見が出されたことから、内容を加筆修正させていただいております。

また、オリンピックにパラリンピックを加えた文言に修正させていただいております。第1の項目について他修正箇所はございません。

次に「第2 教育訓練について」であります。次のページをご覧ください。

2、推進事項（6）、新国立競技場完成時には、競技場の視察や関係機関と消防隊、消防団が連携した実践的な消防活動訓練を速やかに実施する必要がある、という内容に修正させていただいております。この修正は委員からできるだけ早く地元の消防団としての新国立競技場その周辺での訓練を実施する必要があるとのご意見を踏まえまして、内容を修正させていただいております。以下第2項目につきまして修正箇所はございません。

次に「第3 装備資器材の充実強化について」の修正箇所でございます。2、推進事項（6）、「救急用コミュニケーション支援ボード」を消防団のために解りやすく、かつ、活用しやすく改良し消防団用に配置する必要がある、と修正させていただいております。この修正は委員から救急用コミュニケーション支援ボードの図表に解りにくい場所また誤認しやすい箇所があることのご意見を踏まえまして、修正を加えております。

次に、（7）の後段に冷却ベストの科学的実験の評価を記載いたしました。消防技術安全所の研究では、防火衣を着装した状態で気温が30～35℃（湿度60％）では、15～20分で身体冷却（休憩や水分補給）が必要になる。熱中症の具体的予防策として、冷却ベストを着用することで、警戒体温（38.5℃）の到達時間を約5分遅らせることができるとされている。また、冷却ベストの着用は、防火帽なし・防火衣全面開放と同等な体温上昇の抑制効果がある、という

	<p>内容であります。これについては委員の質問である冷却ベストの効果の意見をいただきまして、冷却ベストの効果について追加し、猛暑時の熱中症対策に効果があるものとして記載させていただいております。</p> <p>また、各委員から冷却ベスト、感染防護衣等の消防団の安全を最優先とした資器材の導入等の必要があるとの意見を受けまして、新たに、(8)として追記させていただきました。今後、技術の進歩により消防団の安全を配慮した装備資器材で、効果的な活用が期待できるものについては、積極的に導入を図っていく、という内容で追加させていただいております。</p> <p>以下、第3の項目についての修正はございません。</p> <p>最終ページの「おわりに」の記載内容についても修正箇所はございません。</p> <p>以上、新宿区消防団運営委員会答申案として素案の内容を修正させていただきました。ご審議をよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。ただ今の説明がありました答申書(案)につきまして、何かございましたら、ご意見をお願いします。</p>
委員	<p>前回の素案と比較して読ませていただくと、消防団の安全管理について、「第1各消防団の情勢に対応した事項について」で、「テロ災害等も危惧される」となっており、この後「消防団の災害活動は安全が確保されることが大前提」ということで、「大」が前回はありませんでした。それから「消防団の災害活動は、テロ災害発生時の安全管理に対する～」ときちんと明記されていることについて重要だと思っております。</p> <p>次ページの「2 推進事項(6)新国立競技場完成時には競技場の視察や関係機関～」とありますが、関係機関というのはどこを想定しているのかということを確認させていただきます。</p>
委員長	<p>現在分かっていることを、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>ただいまの委員の質問に対しまして説明させていただきます。現在、関係機関と漠然とした表記にさせていただいておりますが、オリンピック組織委員会、または新国立競技場の施設管理者等の方々と連携した訓練を考えております。以上でございます。</p>
委員	<p>消防団員の安全を確保するということをきちんと位置づけられたことを本当に評価しますし、テロ災害は災害ではない、犯罪であるということはもう一度お伝えして、オリンピックだからといってやたらと任務を増やすということがないようにお願いいたします。</p>
委員	<p>消防団員に向けた答申になるわけですが、各消防団の団長さんのところで、各団員の意見等は盛り込まれているのかお伺いしたい。</p>
委員長	<p>各消防団の団長さんが代表としてこの会議に参加されておりますので、その辺りにつきまして、例えば新宿消防団300人ひとりひとりからアンケートを取るなど、私も団員経験がありますのでそこまで手間をかけているのか分かりませんが、日常業務の中で話し合いをしていると思います。その中で、この答申案を詳らか</p>

	に一語一句見せて確認しているかについての回答でよろしいでしょうか。各団長さんの方からお願いいたします。
委員	新宿消防団として、委員長の答弁と同様、みんなで話し合ったということはございません。ただこういった答申が出た場合には、東京2020大会に向かって、新宿消防団を含め都内の消防団はこのようにやっていくから、みなさん訓練をお願いすると思うのですが、個別に対しての我々の意見を直接言ったということはございません。
委員	今回、答申に修正を加え大変素晴らしい内容にまとまったと思っております。今後の流れですが、これで答申として完成という形なのか、また今後のスケジュールはどのようになっていくのかお聞きしたいと思います。
事務局	今回最終答申書ということで、みなさんの意見を踏まえて加筆修正があれば、内容を修正したものを出させていただきます。また今後につきましては、東京消防庁としても答申内容を踏まえた活動や訓練、いろいろな面で反映していく形になりますのでよろしくお願い致します。
委員	新宿区だけではなく、各区の答申があると思いますが、その中で主だったものを反映していくという話なのでしょうか。
事務局	各23区の消防団運営委員会の答申書があがってきますので、それを踏まえて隣接する消防団との連携等も踏まえながら、答申の内容を実践していく形になるかと思えます。
委員	先ほど委員より、このオリンピックに関して、消防団の出動が多くなることのないようにという意見がありました。確かにそれもあるとは思いますが、一生に一度あるかないかの東京オリンピックですので、消防団としてこういう形で携われたという取り組みを踏まえていただきたいと、意見として申し上げさせていただきたいと思えます。
委員	出動が多くということではなくて、任務をテロ対策、テロ災害といって危険なところまで拡大することがあってはならない、ということです。
委員長	テロ災害のためにわざわざ仕事を探して増やすということではなく、安全安心の誘導や従来の活動を行い、そのためには訓練も必要になると思えますので、バランスよく消防署と消防団で話し合って、無理なく進めていただければと思います。
委員	先ほどの委員の話ですが、シティハーフマラソンや神宮での野球の試合やイベント時に、すでに消防団と連携して警戒に当たっており、我々としてはあくまでも消防団員の方々には後方支援をお願いし、特にテロ等に関しては、消防隊についても警察やきちんと組織が対応して、その後の傷病者の発生等は消防の方で対応としています。ですから直接的に危険なところに行くことは想定していないこと、合わせて色々な消防団と連携して警戒する中で、今回の答申書に含まれた内容や、今後こういう装備が必要だ、こういう警戒が消防団のあるべき姿だということを団員の方々とも話し合いをしながら進めているのが現状です。ですので、オリンピックに向かって共に連携をしながら、あるべき姿を模索していくのが必要だと

	<p>思います。その結果も踏まえ大きくかかせていただいたところもあると思いますので、ぜひこの答申書の趣旨に従って、きちんとした安全が確保された警戒ができるように、我々も今後配置していきますのでよろしくお願い致します。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。その他ご意見ご質問ありますでしょうか。</p>
委員	<p>今、委員からもお話がありましたが、意見というか確認させていただきたいことがひとつあります。今回の答申案、特に東京2020大会に向けてということで諮問がされているわけですが、当然2020大会だけでなく、今後も踏まえて消防団の資器材や活動に対するさまざまな模索の充実ということを見据えていただいているかと思います。その中で、先般運営委員会で質疑をさせていただいた冷却剤を活用した保冷ベストについて今回記述を加えていただいたことに大変感謝申し上げます。消防団の皆様の訓練を拝見していますと、夏場の時期の課題について多くお声をいただいておりますので、2020大会に留まることなく、それ以降も資器材を充実させていただきたい、また安全の確保についても2020大会だけでなくそれ以降も踏まえてやっていただきたいという意見を申し上げると共に、今後の取り組みについて確認させていただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>委員からありましたとおり、2020大会に限らず今後の消防団の運営につきましては、消防団が活躍、活動しやすい環境を踏まえた内容で、我々も訓練をしていきたいと思っておりますので、貴重なご意見ありがとうございます。</p>
委員	<p>答申書を作るにあたりさまざまな意見を取り入れていただいて最終案ができたことを非常に感謝しております。オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて今回議論させていただきましたが、委員もおっしゃられたように消防団の消防や救命等の活動自体について、これを機会に自分の分団だけでなく地域との連携や、また資器材も配備されますので地域の防災力向上にもつながる非常に大切なことだと思っております。オリンピック・パラリンピックまでもう2年を切っている関係で、夏は1回しか消防団は経験ができませんので、これからはこの答申案を受けて、実際の運営を決めて行かれるのかと思いますが、夏に間に合うのか不安に思っています。今年と来年の夏で1回冷却ベストを着て、消防団が訓練をできたらいいなと思っております。また、国立競技場の完成がまだ先になりますので、準備をしておかないと大規模な訓練をするのも難しいのではという懸念もあります。もちろんその辺りも考えてこれからの訓練を考えていくべきだと思いますが、私も消防団員ですので、大会に参加できることが楽しみな気持ちもありますので、参加するからには消防団が誇りを持って東京都の特別公務員として参加できるように準備もなるべく早い段階から進めていただきたいとお願いだけ申し上げて私の意見を終わります。</p>
委員	<p>消防団の始式に参加して、若い消防団員でも語学堪能な方が結構いらっしゃるということを改めて認識しまして、力を発揮できると思います。もうひとつは、消防団の定足数に若干不足していることもありますので、各関係機関と協力しながら、消防団員の定足数の充足を図り、語学等々のオリンピック・パラリンピック</p>

	<p>に向けた特殊技能を持つ人達の積極的な活躍の場を広げるということも必要だと思います。11分団の総会というか新年会に出させていただいた時も、富士大学の集会に入団促進の訴えをしに行ってるということ伺いました。皆さんいろいろな所で行っていらっしゃるから、さまざまな活動をする上で、団員の皆さんが人数的にやっぱり大きい、そしてそれぞれが持っている技能や、消防団がこんなこともやるんだという、改めて持てる力を発揮できるようなことが、オリンピック・パラリンピックに向けて必要だと思いますので、そういった内容がどこかに一文入ると非常にいいと意見を述べさせていただきます。</p>
委員長	<p>ただいまご意見いただきました取扱いについていかがいたしましょう。</p>
事務局	<p>お手元の資料の活動環境の充実を図るという項目の中で、文言を入れられればとりたいと思いますがよろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>事務局の方でどのような文章にするかご一任いただけるようでしたら、今の趣旨に則った方向で記載させていただければと考えております。</p>
委員	<p>例えば「終わりに」のところにもそういうようなことを努力していくと入れるなど、事務局にお任せします。</p>
事務局	<p>内容を確認しまして、盛り込んだ内容に修正させていただきたいと思います。</p>
委員長	<p>団員募集の強化とかですね。</p>
委員	<p>消防団員がオリンピック・パラリンピックに携わるときに、消防団員だけの組織で運営していくのか、または民間の例えば警備会社の方とチームなどを組んで活動していくのでしょうか。消防団員は、応急救護や消火活動の訓練はしますが、例えばコミュニケーションに関して、民間の方は消防団員でも警備員でもおそらく分からずに話しかけてきたり、そこにはいろんな言葉があったりします。そういった訓練をしていくのか、先ほど委員もおっしゃっていましたが、いきなり本番ぶっつけで行うのはかなり危険なことだと思っております。タイムスケジュール的にあまり時間がないので、例えば今月ですとシティハーフマラソンがありますが、そこでどのような形でやっていくのか、四谷では神宮の花火大会の警戒もやらせていただいています。そういう時にどのような形で行っていくのかということも含めてオリンピック・パラリンピックを見据えて行っていくことが必要なのかなと考えています。そういった中で、先ほど申し上げましたが、民間の警備会社、例えば語学が堪能な学生さんと一緒にチームを組んで、ポジションやチーム編成等を考えており、今後のタイムスケジュールに関して、わかる範囲で結構ですが教えていただければと思います。</p>
委員	<p>今、委員がおっしゃった通り、このオリンピックに向けておそらく組織委員会がさまざまなボランティアを募集していくと思います。今はどちらかと言うと応急手当や警備に当たる警備会社さんと連携していくスタッフを決めていると思いますが、ただ消防団の組織を阻害するような形での連携というのはおそらく東京消防庁としても考えていないと思います。消防団は団長を中心としたきちんとした組織形態がございます。どこかの組織に混ざったり入ったりしての警戒は逆に消</p>

	<p>防団活動の安全を阻害すると考えます。ただ語学スタッフというのは、当然ボランティアでもあると思いますので、先ほど委員からもありましたが、既に消防団でも技能団員としてさまざまな特殊技能を持った団員を推奨しているところですので、当然語学堪能な団員を中心として、団員が警戒する場所にいろいろなボランティアの方が入ることがあれば、場合によっては組織としての連携はあります。ただし団員が混ざるといような連携は私どもとしては考えておりません。四谷消防団に関しては、今回のシティハーフマラソンやいろいろな警戒がありますし、オリンピックの前年度にはプレ大会もあります。実践的な警戒はこれからもいろいろな形で行っていかねばならないと思いますので、ぜひその辺りの動向を見ていただければと思います。</p>
委員長	<p>基本的な計画によりますと、2019年11月くらいに新国立競技場が完成する見通しになっております。議会の方でも視察に行く予定が入っていると思いますが、その工程と工程の合間で、この工程の時にはガイドしか入れられないとか、工事の進捗状況も天候によって変更があります。今回のシティハーフマラソンも実は来週最終コース確認をし、その後ようやく陸連の検定を通るとい見通しになっています。やはり工程のずれによって当初走る予定だった場所が走れなくなったり、最終段階でもいろいろ移動があったりしますので、おそらくタイムスケジュールとしては、2019年11月以降に仕上がった競技場を舞台とした団の皆さんが現地に行っの訓練や視察等の流れになっていくのかなと思っております。基本的に組織委員会はハード面の整備について最終調整を行っており、ソフト面がやや遅れてスタートすると思いますので、今後さまざまな情報が詳らかになって、消防団などの関係機関もいつのタイミングで役割が定まってくるか、これから先になってくると思いますので、その辺りの情報はしっかり東京消防庁も私ども区役所も東京都の方から入手をして、委員の皆様にご周知できるように努力していきたいと思ひます。</p>
委員	<p>シティハーフマラソンで例年消防団の皆さんにご協力いただひて警戒活動をしていただひていますが、シティハーフマラソンのコースは重複しないけれども関連して東京オリンピック・パラリンピックのマラソンコースとして周辺が想定される中で、今年度またはオリンピックまでのシティハーフマラソン大会において、消防団の皆様の警戒活動に当たっていただひく際に、その視点を常に持って警戒に当たっていただひくといことは既に始まっているとい認識でよろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>従来は旧国立競技場を使用させていただひていたシティハーフマラソン、取り壊して今は使えなくなっているので明治神宮球場を使わせていただひていますが、今後新国立競技場が完成したのちに、そこを舞台としたマラソンができると非常に連動した訓練に結び付くと考えています。今回の1月28日に開催される大会におきましては、今のところ子どもたちを沿道で応援させたいといプランの提案が出ており、シミュレーションのための事項としまして小学生たちを募り、沿道</p>

	<p>でどのように応援をするのか、実際に応援をするとどういことが起きるのかということ、今回試行的に行う予定になっております。そういう意味では、警備の配置などもありますので、その部分で消防団の皆さんがどういう配置になるか、40名の方にお越しいただいておりますので、何らかの形で連携していくことになると思います。</p>
委員	<p>委員長がおっしゃったように、今回のシティハーフマラソンでも、皆さんに誤解のないように申し上げておきたいことは、シティハーフマラソンの警戒はもとより、通常の火災や救急にも備えなければなりません。このシティハーフマラソンの範囲で、道路を横断する時にはもちろん緊急時は支障ありませんが、規制がはられた内側の住居地域には既に消防団と消防署を配置して通常災害に備えており、これはオリンピック時にも必要です。通常災害は通常災害できちんと守るべきであり、このためにも消防団の力が必要ですので、オリンピックに目立つ警戒ばかりではなく、普通の地域を守りながらオリンピックとしての競技を円滑に進めていくというような観点であります。今回のシティハーフマラソンも我々としてもきちんと警戒させていただきます。</p>
委員長	<p>常に、さまざまな関係機関の皆様の支えによって、シティハーフマラソンが行われているということがよくわかりました。ありがとうございます。</p> <p>その他何かご意見、ご質問ありますでしょうか。</p> <p>先ほどいただきましたご意見に基づいて答申を作成させていただきますので、事務局に御一任いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、修正した答申書を、東京都知事に答申いたします。円滑な議事進行にご協力を頂きましてありがとうございました。</p> <p>以上で、本日予定しておりました議事はすべて終了となります。以後の進行を事務局へお返しいたします。</p>
事務局	<p>吉住委員長ありがとうございました。</p> <p>本委員会の議事録については、作成後、委員の皆さまに送付いたしますので、ご確認をお願いします。また、概ね1か月を目途に、区ホームページに掲載させていただきます。</p> <p>それでは、以上をもちまして平成29年度第2回新宿区消防団運営委員会を閉会致します。</p> <p>本日は誠に有難うございました。</p>